

## ブラームス：交響曲第2番ニ長調 Op.73

偉大な先人の存在が、新たな創作の大きな障壁となる場合がある。ヨハネス・ブラームス（1833-1897）にとってのベートーヴェンも、その例だった。ベートーヴェンの交響曲を意識するあまり、「第1番」（1876年完成）を書くのに20年もの歳月を費やしたことはあまりにも有名である。だが、続く「第2」番の創作はあっという間だった。1877年の夏、ヴェルター湖畔のペルチャッハで書き始められ、秋にはもう完成されている。

編成はベートーヴェン時代と同じ2管編成を基本としており、ブラームスがオーケストラに対して、後期ロマン派風の派手な音響よりも、古典的な重厚さを求めていたことがわかる。だが、その枠組みのなかで、ロマン主義的な、自由で果てしなく美しい旋律や和声の魅力を発揮している。このギャップこそ、ブラームスの魅力なのかもしれない。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロツポ ニ長調。

第2楽章 アダージョ・ノン・トロツポ 四長調。夢想的な緩徐楽章。

第3楽章 アレグレット・グラツィオーソ（クワジ・アンダンティーノ）、ト長調。

第4楽章 アレグロ・コン・スピリット ニ長調。

遠山奈穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます

楽器編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦5部（スコア上の表記）